

## 義務教育学校の制度を活かし進めてもらいたい教育内容について

- これからの子供たちが学ぶべきことは何かを考える必要がある。ただ先生から教えられることを覚えるのではなく、自分で考える力を育てる教育。
- 子供たち一人ひとりの才能を伸ばす、可能性を導き出す授業スタイル。
- 一人ひとりの能力に合わせた教育環境。通級や特別支援級への偏見のない、誰もが自分に合った環境で学べるような配慮。(先ずは大人の偏見をなくす必要がある)
- 自分自身のことを考える。(身体、心を健康に保つための手段) 体の仕組みや心の病気について学ぶ。(医師やカウンセラーによる授業) 生きるとは何かを学ぶ。(生と死。生きがい、やりがい等)
- 小学生について、英語は専門の先生が授業をして下さっていると思うが、同じように理科や音楽や家庭課なども専門の先生から学ぶことができる体制にしていただけると子どもたちの学びが深まると思う。
- 特に高学年については、同じ学年の子どもたちで合唱や合奏をする機会や、お楽しみ会などのイベントを一緒にする機会を作り、他のクラスの子とも交流できると良いと思う。1学年3クラス程度ということだが、多くの子どもが「自分のクラスが好き、自分の学年も好き」と思えるような学校になると良いと思う。
- 教育課程の特例を生かした魅力的で特色ある教育【1年生からの英語教育、9年間のふるさと教育(プロジェクト学習の導入、ブロックごとの発表の機会)、キャリア教育(9年を通しての自分づくり・自分探し[自己理解、勤労観・職業観の育成、人間関係の形成等] ※地域を担う人材の育成につなげ、ふるさと教育と合併する方法もある。例「ふるさとみらい科」、ICT活用をしたわくわくする授業の展開(SDGs、STEAM学習、プログラミング学習等、時代に応じた内容を取り入れる。)]
- 教科担任制の導入と教科乗り入れによるTT。(二人体制の授業)
- 異学年交流の充実と工夫。(通常の小学生段階におけるリーダーとしての責任感や自己有用感を育成できる柔軟な体制、多様な異学年交流活動の実施、縦割りブロックの集会・行事)
- 9年間の切れ目のない支援体制《個別支援の充実。個に配慮した生徒指導体制の充実》(通級指導教室の充実、自分のペースで学べる教室の充実。不登校児童の居場所づくり、いじめ等、チームでの対応。SC、SSW、教育支援センター「虹」、発達支援センターとの連携体制)
- 課外《地域学校協働活動の充実》(地域移行した部活動への小学生の参加。放課後学習、文化・芸術活動、ボランティア活動への参加[エンジョイの活用])
- 5、6年生の外国語、理科については専門教科の教員による教科担任制の学習を行う。
- 上記と関連して、高等学校によくある「スーパー○○スクール」のように、語学、科学、芸術等、一つの教科に特化した他ではできない教育の目玉があるとよい。
- 町の人材、町民の協力を得て、地域に学ぶことや、地域の特産品や名産品に9年間関われ

るような「ふるさと学習」。それらを学ぶ・育てる・つくる学習がメインとなるが、それだけではなく、例えばふるさと納税の返礼品に結びつくようなルートを設定する工夫など、生活科・社会科・技術家庭科や総合的な学習の時間等、すべてに関連付けた学習になるような、上市町にしかできない教育を行う。

- 地域クラブの指導者等と連携し、4年生のクラブ活動の時間から町の特徴となるスポーツや文化活動に触れる機会をつくり、町独自の活動をする。それを基に、7年生から必然的に学校部活動等に移行していく流れを構築する。

## 新校舎の整備について

- 建設に当たっては、まちづくりと一体的に考え、道路、施設等インフラ整備を思い切った形で実施してはどうか。
- 災害時の避難施設としての機能整備も考えていけばどうか。
- 敷地、建物は予算の関係もあると思うが、あまり窮屈にならないよう圧迫感のないスペースとし、共有（交流）スペースの設置を工夫するなど、子ども達が夢と希望をもって伸び伸びと勉強、スポーツ等に取り組める施設にできたら良いと思う。
- 2階建てぐらいとし、お互いの顔が見える空間とする。剱岳も眺望できる場所を。
- 広々とした空間でのびのびと学べる校舎が良いと思う。グラウンド、体育館は子どもたちが怪我無く体を動かせるスペースを。プールはどうするのか。災害に備えた避難通路。先生方が効率良く働ける配慮。
- 災害もあるので、校舎は出来る限り安全な場所に建てていただきたい。
- 駐車場を広く取っていただきたい。子どもたちが安全に乗り降りできるよう、バスや自家用車と子どもたちの動線ができるだけ別になっていると良いと思う。
- 学校がまちづくりの中心となり町民同士の交流が深まるような施設となることはとても素晴らしいと思うが、防犯上の観点から誰でもフラッと立ち寄れる場所というのは避けた方が良いと思う。町立図書館を併設する可能性もあると思うが、防犯をどのようにしていくのか議論が必要と感じている。
- 町民同士の交流が深まるような施設には賛同するが、防犯対策はしっかりとした校舎であってほしい。
- 学校を複合施設にする。放課後や休日も児童生徒を含めた町民が利用できる。（1階部分を社会教育施設、子ども支援施設等の福祉施設にする。避難場所等にもすぐ活用できる。町立図書館〔大階段の交流・発表スペース付き〕の併設。放課後や休日の居場所づくり〔放課後児童クラブ・放課後子ども教室・放課後学習教室〕。地域学校協働活動推進員等の学校と地域をつなぐ人材の部屋、会議室、多目的スペース、調理実習室。オールシーズン入れる屋内温水プール〔防火水槽の役割を兼ねる〕）
- 教室と廊下の仕切りをなくした開放的な空間、十分な話し合い活動（グループ活動）ができる空間。
- 特別教室の十分な確保（複数配置）、教育課程の発達段階にあった特別教室。
- 広いグラウンド、体育館二つ。（冷暖房完備）
- 広い玄関、広い駐車場や自転車置き場。（児童生徒の安全確保のため、玄関の位置要配

慮)

- 各教室・特別教室のICT機器の設備の充実。(プロジェクターの設置、スクリーン機能の黒板)
- 全館蓄熱暖房。
- 剱岳を望める憩いスペース・交流スペース。
- 玄関付きのフリースー儿的な空間。(狭い空間、広い空間、多様な活動ができる空間)
- 町の中心部に校舎を建設するのであれば、ビオトープや築山、畑等を設置し、町の中心に居ながらにして、子供たちに十分に自然が感じられる敷地の確保をしてもらいたい。
- 町の象徴である剱岳が校舎からいつでも感じられるよう、新校舎のシンボルとなるように、見渡すことができるオープンスペースやベランダ(見晴らし台)を設置してほしい。また、校舎全体の外観のデザインについても、剱岳をイメージしたものにならないか。
- グラウンドやテニスコートについては、管理やメンテナンスの関係から人工芝が望ましいと思う。グラウンドのトラックは200mでよいが、直線で100mとれる長さが必要。テニスコートは最低2面必要。野球の内野部分だけ土にできるような工夫が必要。
- 体育館については、講堂として使える部分と、地域の方も活用できる体育室・武道室・トレーニング室等比較的スペースが小規模の部屋を組み合わせた2層構造にできないか。講堂部分には一部観覧スペースやランニング走路をつけることはできないか。
- 町民が集まるコミュニティスペースや図書室については1階に設置とし、完全バリアフリー化する。人が集まるためには駐車場やバスロータリー等、かなり広めのスペースが必要。
- 給食センターについては食品管理や衛生管理を考慮するため、併設であるが別棟にし、そこで働く職員や調理員については町の活性化や社会的人口増をねらい、外注にせず町独自の民営化をすることができないか。

## その他

- 「上市に住みたくなるような魅力的な学校づくり、まちづくり」について、上市町として、教育・医療・福祉を総合的に検討していくことが今後の上市町発展につながるのではないかと考える。少子高齢化の時代であり、上市町も例外ではないと思われる。町民の年代別人口の推移をトータルで把握し、富山型デイサービスの導入を学校統合と合わせられないか、要するに学童保育と高齢者サービスの複合施設を併設できないかと考える。  
(建物は空き校舎の活用も視野に入れ)時代の変化は致し方ないことではあるが、情報社会でメディアに溢れた中で育っている子供たちが、戦後の日本の時代を切り開いてこられた高齢の方々と触れ合うことは悪いことではないと思う。上市町の子どもから大人までをトータルでサポートできるような施設開設は画期的で、安心した住みよい町へと結びつくと思う。また、医療との提携として病児保育を上市町として運営できないかと思う。現在は核家族化が多く、共働き家庭やひとり親家庭も増えている。子育てしながら働きやすいまちづくりの一環として検討いただければと思う。
- 来年度は学校教育審議会や地区説明会など開催されるのか。特に白萩西部、陽南、上市中央校区の方々はどのような流れで統合へ向かっていくのか気になっていると思う。

